



防空壕の親子

世界第6位の海洋国・日本

武装力の強化より、

「食糧安保」の確保を

9月号の「まずは食糧の需給率を」という寄稿にあたり、その付記として「こんなにも広い日本の耕作放棄農地」という文章を事務局が提起をしました。

「令和の米騒動」と言われた昨年から今年にかけて「米不足」、そして米価の大幅な値上に国民は苦しみました。多くの国民はなぜ不足をしたのか。不足となれば価格の値上がりは付いて来ます。このことに明確な説明がないまま「備蓄米の供出」の在り方目的が絞られ、その販売にあたっては長蛇の列が店舗の前を埋め尽くすという現象を生み出しました。そして現在店舗の棚に並ぶ米価は5キログラムで4000円を超える高値となっています。

そこにきて高温、水不足。そして集中豪雨、大洪水という異常気象に見舞われ今年の米作に不安が出ています。

ここに一つの報告があります。

「山形県置賜長井市は、豊富な水資源と肥沃な土地に恵まれた国内有数の米どころ。絵に描いたような自然豊かな農村ですがよく見ると、作付けされず放置された田んぼが目立ちます。そして「離農が洪水のようだ。このままでは日本の農業は崩壊する」と地元農民は語っています。

(ヤフーニュース・8月24日)

まず「国の自力で食料の需給率を高める」との寄稿の主張は当然と言わなければなりません。そこで目を変え、あらためて日本列島の地理を考えます。

海岸線と島の数です。海岸線の長さが100m以上の島が6852もあり、その長さは「日本最北端の地」で記念碑がある宗谷岬から最南端の沖ノ島までの全長距離は、約2845kmにわたります。それは国土面積の広さは、世界で62位ですが海岸線の長さはなんと6位です。このことをもつても、日本は海洋国家であり、運送、漁業、観光が海と密接に結びついてきた歴史があります。

また海岸線が長いと海の幸は当然多くなります。近海魚が回遊するほか、浅瀬には貝類も豊富に生息する。入り江では牡蠣や海苔などの養殖も活発に行われます。また海岸線が長いだけでなく山林国の日本においては、落葉樹林帯から注ぎ込む河川は、落ち葉による大量のプランクトンを海に供給します。そのことは魚介類の最高の栄養源となり、多くの日本国民はその恵みを受ける民族であることの証明です。

しかし次の歴史があります。満州に駐留していた日本の陸軍部隊である関東軍が、満州事変を経て1932年に傀儡国家「満州国」を建国しました。当時の日本国内は、世界恐慌のあおりを受け深刻な経済不況に陥り、特に農村経済を支えた養蚕業は大打撃を受けました。農家は借金を背負う貧困の状況となり、そこで取り入れら

れたのが「満蒙開拓団」という政策です。その移住計画は、「拓(ひら)け満蒙！行け満洲へ」との国策により、結果として約27万人の開拓団員が海を渡り現地に入りました。そしてそのうち約8万人が現地で亡くなるという悲劇を生んだことを忘れることができません。

当時の政府の「傀儡国家・満州国」の建国の意図があつたにせよ、広い海岸線からの恵みをとる政策を建てていたら北方、尖閣問題をはじめとする日本の歴史、そして海洋技術などの文化、生活様式も随分と変わっていたということを考えます。

そして今、地球の変動もあります。日本の漁業は危機的な状況にあり、漁獲量は1984年の1282万トンを一途をたどり、40年間で3分の1以下にまで下落(2024年は363万トン)しました。このペースが続けば、2050年には漁獲ゼロになる可能性もあるといわれています。「海の恵み」に大きな障害が生まれます。しかし世界第6位の海洋に面している日本の宝を大事にする国策は、8兆円以上をかけて強化しようとする武装力よりも、日本国民の命を守る「食糧安保」に舵を切り変えることこそ大事であることを再確認したいと思えます。今からでも遅くない。農業、漁業の復活のため、「担い手不足の解消」と「乱獲防止」といった面に対する政治の関与が必要であると考えます。



種子島ほどの面積に200万人の人が住む

世界で最も人口密度が高い場所

人口の約45%は14歳以下の子ども！

「地獄から助け出してほしい」。制圧に向けたイスラエルの動きが強まるパレスチナ自治区ガザ地区の最大都市ガザ市で住民の悲痛な声が上がっている。仲介国は本格的な作戦開始前の合意を目指し、新たな停戦案を出す意向だが状況は一層緊迫している。

「ガザ市西部でテント暮らしを送るムハンマド・アブドゥッラーさん(34)は、今はただ、これから何が起きるのかとおびえていると声を震わせながら語った。イスラエル軍は約100万人が暮らすガザ市の住民を、南方に避難させたうえで地上作戦を実施する方針だ。しかし、国連人道問題調整事務所(OCHA)によると、ガザ全域の約86%が立ち入り禁止または避難勧告区域に指定されており、住民の不安は高まっている」。

(2025年8月12日、ロイター)

空爆はやまず、市民の命が次々と奪われていく。食料は底を突き、子どもたちが痩せ細っていく。パレスチナ自治区ガザ地区の人道危機は、すでに限界に達しつつある。

(毎日新聞・2025年8月16日)

ガザ配給所周辺で発砲32人死亡

支援の場が「死の畏に」

人道状況の悪化が深刻なパレスチナ・ガザ地区で食料を受け取ろうと集まった住民に向けてイスラエル軍が発砲します。ガザ保健当局によりまずと、ガザ南部にある支援物資の配給所周辺で19日イスラエル軍の発砲があり、少なくとも32人が死亡し、数十人が負傷しました。イスラエル軍は「呼び掛けに応じず、部隊に近付いた人に対し警告射撃を実施した」と主張しています。一方、現場にいた人々はイスラエル軍の呼び掛けはなく「無差別に発砲が始まった」と話しています。ガザ地区では食料を受け取るために集まった人々にイスラエル軍が発砲するケースが相次いでいて、これまでに891人が死亡し、5700人以上がけがをしています。このうち大部分はイスラエルとアメリカが主導する援助団体「ガザ人道財団」の拠点周辺で犠牲になったということです。ガザ保健当局は支援の場が「死の畏に」なっていると人道状況の悪化に危機感を示し、安全かつ安定的な支援の必要性を訴えました。

(2025年7月20日・テレビ朝日)

そして日本でも

「生き地獄の様」を経験している

B29爆撃機による焼夷弾の投下の中逃げまどう。大人たちは傷ついた人を踏みつけて走る。川に飛び込む者。一枚の板に命を預けていた者の命綱を奪い取る者。まさに「生き地獄」の様に至る所で発生した。そしてまたそのような中で親を失い、さまよった多くの児童の姿もあつた。

「私は徴兵、徴用を免れたので町の警防団特別警備隊員として、警戒警報、空襲警報の出るたびごとに、必ず築地警察署にかけつけていた。あの晩も(1920年3月9日)すぐに飛び起き警察署に向かった。すでに深川方面は火の海と化して空は真っ赤である。間もなく築地一帯にも焼夷弾がだいぶ落下して、あつという間に火の町になった。我々団員は懸命に消火につとめたが、人力ではどうにもならない。明け方までには町の広範囲が焼けたが、さすがに本願寺の建物は残った。私の住む小田原町も一部焼けたが、幸いにして私宅は無事だった。翌日、本所深川方面は全滅とのニュースを聞き、疲れも忘れて緊張しな

がらボロ自転車に飛び乗って、現場の状況を視察するために深川方面に向かった。永代橋まで行くくと、わずかな荷物を背負った罹災者。顔は真っ黒、眼は火にあおられたのか赤く細くなつた姿で京橋区方面に避難する様子。門前仲町あたりでは、木場方面から都電線路沿に頭を永代橋方面に向けて、まるで将棋倒しのかっこうで重なりあつた焼死体が横たわっている。その瞬間は眼を見張つて驚いたが、少し歩いているうちにその悲惨さにも馴れてやや落ち着いてきたが、深川不動尊の前あたりは特にひどかった。最も印象に残つたのは、幼児を抱きしめたまま死んでいる哀れな姿、髪の毛なども焼けてしまい男女の区別もつかなくなつた。いま思うとデパートにあるマネキン人形の裸体が並んで倒れているような感じである。

そしてあの時10万人からの焼死者が出たのかと思うと未だにぞととする。それから数日後まで隅田川には毎日のように死体が流れてきた。私は築地魚市場の河岸にある事務所勤務していたのでこの哀れな姿を見る機会が多い。魚を揚げる棧橋には、誰が揚げるともなく死体の数が増してきた。そしてその死体を片付ける人はなく、何日かそのままになり、ついにはなるべく揚げないようになつてしまった。死体の処置はたぶん3月の末頃までかかったと思う」。

(東京大空襲を記録する会出版物より)

また学童疎開が全国で展開された。その中で悲しい事実も多く生み出していた。その一つに、空腹に耐えかねた児童が、先生に「○○ちゃんはお腹を壊している」と告げ口をする。○○ちゃんのお茶碗に盛られた僅かな「飯を狙つてのことであつた。○○ちゃんは「お腹を壊していない」と、その告げ口を否定するが「お便所で音がした」と。戦争が終わつた時の学校での光景がある。お昼

になると決まって何人かの子どもが教室から出ていく。その行き先は校庭の砂場であり、そこが弁当を持つてくることができないう子どもたちの避難場所であった。また弁当を持つて来ることができても「米粒の少ない、山菜や芋の混ぜご飯」。そして最初にその中の僅かな「ごはん粒」を箸で挟み口に入れていた。餓死を前にしたガザの子どもたちの姿を見るにつけ、私たちはそれを「どこかの国の出来事」としてはいないだろうか。

国土も国民も復興不能な結末が

有りうる安全保障に、

どんな意味あるのか

今年も8月6日午前8時15分の広島市、8月9日午前11時2分の長崎市において平和集会を迎えた。第二次世界大戦末期にアメリカ合衆国が、日本に投下した人類史上唯一の核兵器を実戦で使用された日時である。

そこで語られた湯崎英彦広島県知事の次の言葉があった。

あらためてその一文をかみしめたい。

「―前文省略―もし核による抑止が、歴史が証明するようにいつか破られて核戦争になれば、人類も地球も再生不能な惨禍に見舞われます。概念としての国家は守るが、国土も国民も復興不能な結末が有りうる安全保障に、どんな意味あるのでしょうか。抑止力とは、武力の均衡のみを指すものではなく、ソフトパワーや外交を含む広い概念であるはず。そして、仮に破れても人類が存続可能になるよう、抑止力から核という要素を取り除かなければなりません。核抑止の維持に年間14兆円超が投入されていると言われていますが、その十分の一でも、核のない新たな安全保障のあり方を構築するために頭脳と資

源を集中することこそが、今我々が力を入れるべきことですよー以下省略」。

自衛隊の武装強化と防衛予算の増大

攻撃型無人機(ドローン)の供給

防衛省は、8月末にまとめる2026年度当初予算概算要求で、過去最大となる8兆8千億円を計上する方向で調整に入った。防衛力の抜本的強化を掲げた整備計画の4年目に当たる。無人機を活用し、攻撃や偵察能力を向上させるため大量配備に向けた調達費を盛り込む。

(共同通信・8月19日)

中谷防衛相は8月20日トルコの無人機メーカ―を視察。政府は比較的安価なトルコ製の導入も検討している。トルコはロシアの侵攻を受けるウクライナに攻撃型無人機(ドローン)を供給するなど防衛産業の発展が注目されている。視察は国内の防衛産業基盤強化に関し取り組みを参考に狙いがある。どこまで行くのか、自衛隊の武装強化と防衛予算の増大。

(時事通信・8月20日)

ウクライナ軍によれば、ロシアが攻撃に使用した無人機は142機で大半は撃墜したものの、10カ所が攻撃を受けたという。攻撃側の人命を失わず、相手の人命、財産を奪う兵器こそ「ドローン」である。それを「安上がりの兵器」と言うのか。

1000キロの長射程ミサイル配備

また防衛省は「反撃能力」として使う射程およそ1000キロの長射程ミサイルを熊本市や静岡県の上自衛隊の駐屯地などに配備することを公表した。艦艇を除き「反撃能力」としても使うミサイルの配備先を防衛省が公表したのは今回が初めてである。

(NHK・8月29日)

報告・提言のひろば

■参議院選挙期間中、連日の街宣やチラシ配布など。そしてマイクを持ち街頭演説を行い、選挙が終わった後1週間体が動きませんでした。選挙も今はSNSの活用など、大きく変わり変化を迫られています。課題山積ですが、排外主義、差別主義が蔓延するような状況に危機感を持っています。社民党藤沢だけでも元気な活動が出来るようにと努めています。

■91歳を過ぎた自分。体調不良でニュースへの返信も叶わず欠礼しました。先週、東独と一緒に学んだ同僚の告別式に行ってきました。現在の自分なりの生き様は、社会党・総評時代のそれにかづけられながら過ごしております。そしてかうじて「研究会」に出席しております。会場は新橋駅近く、そして社会党、総評時代のデモを思い起こしています。太田、岩井の総評時代。人間的に魅かれる思いの当時の指導部でした。かかる想い出の中の「しがらみ」ではありませんが、でもやはり、やはり常に社会党、総評時代の事に魅かれながらの日常を過ごしております。

■先日、番組で陸上自衛隊の色々な武器が紹介されていました。台湾有事ということで確実に敵を迎撃するための最先端のテクノロジーが駆使されているようです。災害救助にも役立つものもあると言っていました。確実に殺傷能力のある武器であり、日本が変わっていつていることを感じました。戦争から帰還された方々は多くPTSDを発症して子どもや孫にも影響を与え、生きづらさにつながっていることが取り上げられるようになってきました。97歳の母も「戦争は絶対に



ダメ」と申しております。

■小生も今になって、ついに「コロナ」に罹患してしまいました。最初は家内が何処かで貰い、自分もやバイな一と思つたら、案の定罹患してしまいました。今は漸く回復し日常の生活に戻りました。明日からは、休んでいた「子供も守り隊」の復活を予定しています。もう「コロナ」は、大丈夫と思つていましたがまさかと言うまさかがありました。世の中の政情は、「石破おろし」、「トランプ問題」など内外落ち着かない状況です。

■福島は全国の暑い場所として常に上位にランクされそれに雨不足でコメ農家等は大変です。野菜、米、果実等の悪影響が懸念されます。参議院選挙も終わり予想した様に自民が大敗し、早速石破おろしで騒がせています。そして若者の層は「参政党」に流れたようです。いわゆるSNS戦術が功を奏した様で、選挙の有り方が我々の認識とは随分変りました。小生は「参政党」は極右的と思つています。若い層には自民はダメだがメリハリのある発言をする参政党を支持した感じですね。

■戦争に向かって進む、日本政府のこの数年の現状をふりかえつています。そして、11月1日(土)に福田護弁護士にお願いし、「亡国の安保3文書ー日本が台湾有事戦争の最前線に?！」と題する講演会を神奈川でおこないます。子や孫の世代に戦争の悲惨を絶対に味わせたくない思いで頑張り合いたいと思います。

■参政党の靖国神社への大挙参拝には呆れました。「靖国神社」がどんな歴史を持ち、何が問題なのかを知らない世代が、中央も地方も「議員」の大半を占めるようになってきたようです。

■昼間は当然ですが、夜もエアコン無しでは寝ら

れません。大変な気候になり、地球温暖化より沸騰? (地球沸騰化は地球温暖化の進行による影響が危機的な状況であることを伝えるために、グテーレス事務総長が発言した言葉) と思われるくらいです。暑くなるとエアコンを含めて、余計に電力を使い、さらに悪化する事態を招いています。悪循環が止まりません。世界の状況も悪循環です。AIも電気を大量に使う。皆が一日中スマホに、A-に、そしてケータイ扇風機にエアコンに。そしてヒートアップの拡大です。たらいで水浴び、そして団扇で涼む時代はとも贅沢な過ごし方だったような気がします。本来、政治は「全ての国民のために行われるべき」だと考えます。特定の個人や集団のためだけに行われるべきではないと思います。

■ようやく雨が降った会津です。この雨を利用して、秋野菜の播種をしました。しかし、明日からはまた猛暑酷暑の様子なので水やりが必要です。米どころ会津、早稲種の稲は色づいてきました。9月中旬頃から稲刈りが始まります。この猛暑で会津のコシヒカリは丈が伸びています。昨年同様倒伏の心配があります。高温による品質の低下の心配も。米の値段は高値予想ですが、大雨に見舞われた地域の田んぼの冠水もあります。私のような中山間地域での農業の担い手がいな

い現状など、米を作れる人がいない。今頃、米増産を叫んでもどこまで増産できるかです。

■今回の参議院選、大椿さんは残念でした。いずれ国会に帰り咲いていただきたいと思つています。今の日本は、ニュースにありましたように核イコール原発問題、政治への不信任感。参政党などによる問題発言の連発。日本はどこに向かつて進むのか。安倍元首相による多くの

混乱が終始できなくなっている日本を考えるとトゲトゲしてきます。

■参議院選における社民党の全国得票率を見ると不十分ながら九州、東北の頑張りはあるものの、他の実態に対する党本部、各県連においては考えるところがあると思う。ラサール石井候補に助けられたとする場合ではないと思う。かく言う小生も歩行困難、何事もタクシーのお世話になつている始末です。何事もできないこと残念です。お許しください。

■秋は各種、イベントや取組みが目白押し、何よりも社民党を足元から元気にする取組み、激変する政治状況にどのように対応するか、課題山積です。自分の対応能力に、つい、ため息がでますが、微力だけど無力ではない、を言い聞かせています。



カンパと寄稿

ありがとうございます

二名の方から計4000円のカンパを頂きました。

またニュース8月号、9月号を読んだの感想、寄稿が多く寄せられました。

またOB・Gニュースは県内11の現地担当者の努力で「現地印刷、配布」が実施されています。そのことが9月18日号の「社会新報」に掲載をされています。是非ともお仲間を広めて下さいますようお願いいたします。

(事務局)